

4年 交流のわをひろげよう

《概要》

干俣小学校の4年生が、地域の聴覚障害者である「田中さん」との交流を通して学習する「交流のわをひろげよう」は、今年で4年目になります。「交流のわをひろげよう」は、干俣小学校の総合的な学習の時間のカリキュラムとして位置づけられている「コミュニケーション」が大きなテーマで、様々な人との交流から相手の立場を思いやることの大切さを学ぶだけでなく、さらに自分自身を見つめ直し、人とのかわりの中でたくましく生きる力を身に付けていくことを願っています。

《学習の経過》

9月26日	聴覚障害者「田中さん」と手話通訳者「高橋さん」との初めての交流体験
10月4日	田中さんとの交流から、「こんな自分になりたい」という目標設定 
}	目標たち成に向けて学習計画を自分でたてて、それぞれの追究活動
11月5日	中間発表会をおこない自分の追究活動を振り返る  
}	振り返ったことから新たな追究活動 
11月20日	ふるさと学習発表会（本日） 
}	2回目の交流会に向けての計画準備。
12月4日	聴覚障害者「田中さん」と手話通訳者「高橋さん」との2回目の交流体験

《学習内容》

私たちは、言葉の通じない外国人と会話するために思わず顔の表情やジェスチャーを意識したりします。聴覚障害者との会話でも、手話だけでなく顔の表情や仕草などのジェスチャーが重要な手段になってきます。また、あまり知られていませんが、聴覚障害者の会話の手段として、口話法や筆談法も一般的な手段です。その他、聴覚障害者に合図を送る手段として、後ろから肩をたたいたり、床やテーブルを鳴らして振動で伝えたりという手段もあります。さらに、聴導犬という聴覚障害者を援助する犬が活躍していたり、聴覚障害者のために音以外の手段で知らせる様々な生活必需品があります。このような聴覚障害者や聴覚障害者の生活について、実際に地域の聴覚障害者と交流することを通して学習できることは、子どもたちにとって貴重な経験だと思います。聴覚障害者との交流を通して、あらためて自分自身についてふりかえり、コミュニケーションすることの楽しさや大切さについてわかるようになり、人とのか

かわりの中でたくましく生きていく力を身に付けていくことができるようになることを目指しています。

子どもたちは、地域の聴覚障害者「田中さん」や手話通訳者「高橋さん」との初めての交流体験から、音声に頼らないコミュニケーションについてどうしたらよいかということに気づき、それぞれが自分なりの切実な課題意識をもちました。このことから聴覚障害者とコミュニケーションするために、「こんな自分になりたいな」という目標を一人一人たてました。そして、その目標を実現するために、聴覚障害者や聴覚障害者の生活についてより広く深く追究が深まっていくことになりました。今日の発表は、その追究過程の様子やこれまでの追究した成果の紹介です。それぞれの目標たち成に向けて、インターネットや本、ビデオ、職場見学など、様々な追究方法で自分なりの学習計画にそって活動してきました。また、今日の発表は、聞いている人にわかりやすく上手に伝えられるように、みんなで協力して計画をたてたり準備をしたりしました。

一人一人が「こんな自分になりたい」をめざして追究しています！

- 手話でいろいろおぼえてじこしょうかいをする。(A君)
- 手話をおぼえてはしづめさんとはなしができるようになる。(B君)
- 手話と指文字を覚えて歌の手話をできるように。(C君)
- 不自由な人の役にたちたい。(D君)
- 手話をして田中さんとお話ができるようになる。(E君)
- 手話で田中さんと話ができるようになりたい。(F君)
- はずかしがらないで田中さんと話ができるようになる。(G君)
- 手話を練習してまちがえないで出来るようになりたい。(H君)
- 手話をほとんど覚えていろんな人と話ができるようになる。(I大君)
- 手話で自己紹介と話ができるようになる。(J君)
- 簡単な手話や筆談で自己紹介やお話で楽しくなるようにする。(Kさん)
- 自己紹介でもっと詳しく話せるようになる。(Lさん)
- 耳の不自由な人といっぱい手話で話せるようになる。(Mさん)
- 人の気持ちを考えて話せるようになる。(Nさん)

ふるさと学習発表会の後も、「交流のわをひろげよう」の学習は続きます。12月4日に、今までの追究の成果を生かして、もう一度干俣小学校に田中さんと高橋さんを招待して交流会を開きます。どんな楽しい交流会になるかとっても楽しみです。

なお最後になりますが、田中さんと高橋さんをはじめ、職場見学の際にはつつじ荘の皆さんにまで子どもたちの学習に協力していただき、大変お世話になりました。田中さんや高橋さんのやさしいお人柄のおかげで、子どもたちは手話などに興味をもち、とても楽しく学習することが出来ました。将来いろいろな人とかわり合っていく中で大事な力を身に付けることが出来ているのではないかと考えています。直接お世話になっている方々に、この場を借りて御礼を申し上げます。

